

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査結果について

横浜市立豊岡小学校
校長 岸田 晋

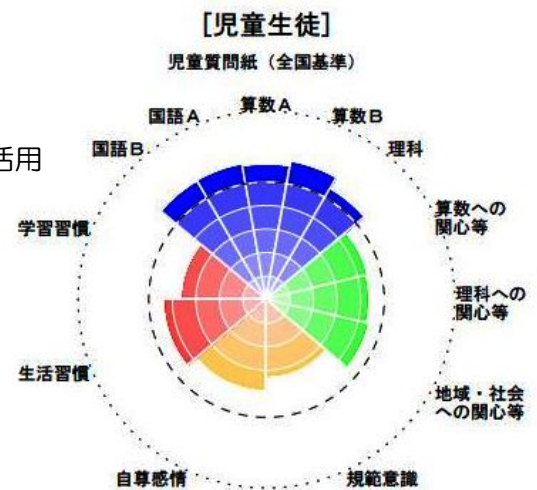
平成 30 年 4 月に小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

なお、今回の結果により測定できるのは、学力特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。この調査結果にとらわれすぎることなく、児童一人ひとりの力をつけることに引き続き取り組んでいきます。保護者・地域の皆様には、本調査の趣旨を十分に理解した受け止め方をいただけるようお願いいたします。

(1) 教科学習状況調査結果

平均正答率 A問題：主として知識／B問題：主として活用

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
豊岡小	77	61	69	59	63
横浜市	73	56	66	54	61
神奈川県	70	54	64	52	60
全国	71	55	64	52	60



全国の正答率と比較して結果に特徴のある項目・問題

【国語】

- 国語A・Bともに、すべての問題が全国平均を上回り、ほとんどの問題で5ポイント～12ポイントと大きく上回っている。
- 特にA「書くこと」は全国平均を10ポイント上回っている。
- その中で次の趣旨1問は平均以上ではあるが、+1ポイント程度である。
 - ・日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う
- また、漢字については5問トータルでは全国平均を上回っているが、「消毒」「積極」の2問は、全国平均を若干下回っている。

全国の正答率と比較して結果に特徴のある項目・問題

【算数】

- 算数A・Bともにすべての問題が全国平均を上回っている。特にB（主として活用）は全国平均を大きく上回っている。その中で次の趣旨2問が低い数値を示している。
- 示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる (+1ポイント)
- 円周率の意味について理解している (+1ポイント)

【理科】

- 理科トータルとしては、全国平均を上回り、特にB（主として活用）は全国平均を5ポイント上回っている。
- しかし、A（主として知識）は全国平均を下回っている。
- 学習指導要領の区分別に見ると、「A区分エネルギー」は、全国平均を10ポイント近く上回っている。
- 評価の観点別に見ると、「自然事象についての知識・理解」が、全国平均を7ポイント下回っている。

（2）各教科結果の分析

国語、算数において、A問題（主として知識）B問題（主として活用）ともに正答率は高く、ほとんどの問題で全国平均を5ポイント以上上回っている。ただ、国語の「慣用句」「漢字」、算数の「円周率の意味」の一部が若干弱いことが示されていることから、知識の定着を確実に図るようしていきます。

理科については、「知識・理解」が不十分であるというデータが示された。また、区分（単元）による差が大きいことも、「知識・理解」の定着度合いが影響していると考えられる。「科学的な思考・表現」は全国平均を大きく上回っていることから、「知識・理解」の定着を図ることによって、国語・算数と同等の結果が得られることが予想される。「知識・理解」の定着に努めます。

今回の調査教科だけでなく、全教科においてノート指導の充実、自分の思いや考えを言葉や文章で語る機会を増やすなど、授業改善に取り組んでいきます。

（3）児童質問紙の集計結果より

本調査での「教科学力」は前述の通り、全国平均を上回っている。しかし、「学習に対する関心・意欲・態度」「規範意識・自尊感情」「学習の基盤となる活動・習慣」の質問紙結果は、ほとんどの項目が全国平均を下回る結果となっている。（「当てはまる」「どちらといえば当てはまる」の合計で比較）

「関心・意欲・態度」では、全国平均を下回っているものの、昨年度と比較するとほとんどの項目が向上している。昨年度からの取り組みである「基礎基本を重視し、誰もが分かる楽しい授業の実現」の成果が少しずつ上がってきているので、引き続き指導の工夫に努めます。

「学習習慣」では、「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」が低い数値を示している。しかし、別調査で一日の勉強時間は全国平均よりも長時間であることが示されている。このことは、本校児童が家庭外での塾等習い事に費やす時間が多いことを示している。家庭での計画的・自主的な学習が少ないので、学校では自分たちで計画を立てることが可能な学習である「特別活動」「総合的な学習の時間」などをより充実させていくようにします。

「規範意識・自尊感情」で低い数値を示している項目が多く、特に「学校のきまりを守っていますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の低さが気になるところである。これらの項目は昨年度より向上しているが、まだ全国平均を下回っている。児童が互いに認め合い助け合って活動する中で、一人ひとりが自己有用感をもてる学級づくり・学年経営を目指し、情報モラルを含む「道徳の時間」を充実させ、心の育成に努めます。

地域と関わる設問では、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」が、全国平均+9ポイントと高い数値を示している。ただ90周年の翌年には+20ポイント近くであったものが、毎年低下傾向にある。地域との連携「まちとともに歩む学校」の定着に努め、5年後の100周年へと繋げていきます。